

定山溪観光魅力アップ構想（案）

目次

第1章 構想策定にあたって

1	策定の背景.....	1
2	構想の目的.....	2
3	対象エリア.....	2
4	構想の位置付け.....	3
5	計画期間.....	3

第2章 定山溪観光を取り巻く社会環境

1	人口推移.....	4
2	観光に関わる動向.....	6
3	国内温泉地の状況.....	12

第3章 定山溪観光の現状と課題

1	位置・交通・歴史.....	13
2	利用状況.....	15
3	観光資源.....	16
4	定山溪の特性と現状分析.....	20
5	定山溪の観光魅力アップに向けた課題.....	25

第4章 定山溪観光魅力アップで目指す姿

1	目指す将来像.....	28
2	将来像の実現に向けた基本的な考え方.....	29

第5章 基本方針と展開

- 1 温泉街らしさやにぎわいづくり 32
- 2 広域的なネットワーク化による新たな魅力創出 34
- 3 魅力を伝える情報発信・インフォメーションの強化 36
- 4 魅力アップの担い手育成とマネジメント 38

第6章 観光魅力アップの推進に向けて

- 1 推進体制 42
- 2 段階的な魅力アップの推進 42
- 3 進行管理 43

資料編

- 定山溪観光魅力アップ構想の実施主体及び展開スケジュール 46
- 策定経過 48

第 1 章 構想策定にあたって

1 策定の背景

定山溪は、札幌市南区に位置し、札幌都心部から南に約 30km、支笏洞爺国立公園の区域内に位置する緑豊かな溪谷を有する北海道を代表する温泉地であり、札幌の奥座敷と呼ばれています。

毎年 100 万人以上の宿泊客と 30 万人以上の日帰り客が利用し、入湯税収入は約 2 億円となっていますが、団体旅行から小グループや家族などの個人旅行へのシフトに伴い、宿泊者数は減少傾向にあります。海外観光客については、近年、東アジアを中心に増加しています。

全国的な傾向と同様、利用者の旅行目的や嗜好も多様化しており、温泉街の散策や周辺の自然を生かした体験活動の魅力などの必要性が増しています。また、格安航空会社（LCC）の就航や北海道新幹線の開業予定、国道 230 号の拡幅計画など、北海道や札幌・定山溪に訪れやすい交通環境が整いつつあります。地域では、イベントの開催をはじめとした定山溪全体での取組が行われるなど、魅力アップに向けた機運が高まりつつあります。

一方で、各種施設などの老朽化が進み、温泉地としての魅力ある景観や温泉街らしさが失われつつあります。また、温泉のほかにも自然を生かした体験や散策、食など様々な魅力があるものの、十分に活用されていない状況もあり、さらなる活用や連携が求められているとともに、それらの観光資源や魅力を含めた定山溪の認知度向上も大きな課題となっています。

そのため、このような旅行形態の変化や観光ニーズの多様化などに対応しながら、定山溪地区が抱えている課題を解決し、札幌市と地域が連携して定山溪全体の魅力を高めることが求められています。

【定山溪温泉全景】



2 構想の目的

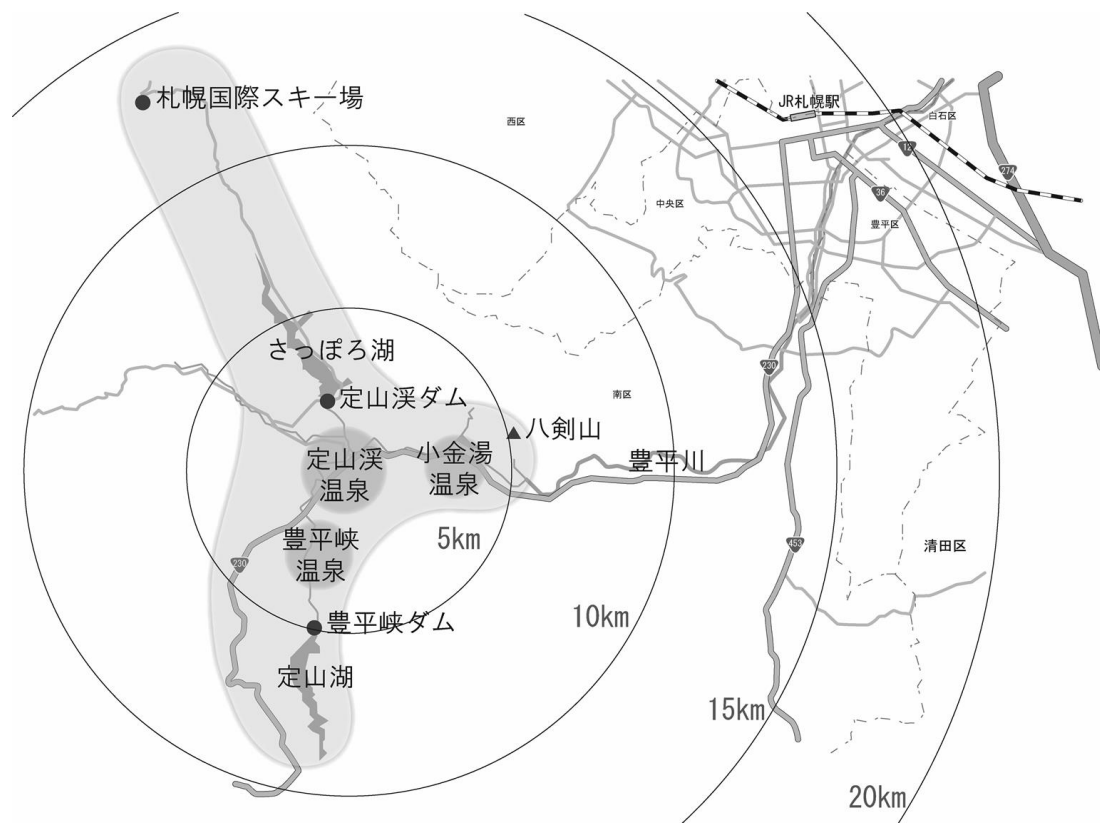
道内でも有数の規模を誇る温泉地であり、札幌市民にも親しまれている定山溪は、近年、宿泊者数が減少傾向にあります。都市部や新千歳空港から近く、魅力的な宿泊施設や温泉をはじめとして、自然や体験スポットなどの多くの観光資源があり、今後の取組により、さらなる誘客が十分可能と考えられます。

そのため、札幌の集客交流を担う重要な温泉地として、また、札幌市民に愛される札幌の温泉地として、ソフト・ハードの両面から温泉観光地として魅力の底上げを図るとともに、新たな価値を創出・発信する必要があります。

こうしたことから、今後の定山溪の方向性を明らかにし、札幌市と一般社団法人定山溪観光協会、ホテル・旅館、その他の事業者、住民が一体となって魅力的な観光地づくりを進めるための指針として、「定山溪観光魅力アップ構想」を策定します。

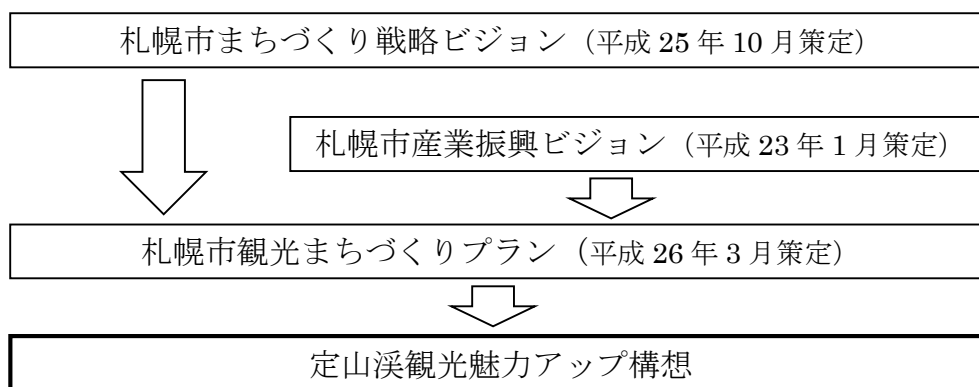
3 対象エリア

本構想では、多様化する観光ニーズへの対応や面的な広がりをもった観光地としての定山溪の魅力を生み出し、発信することが求められることを踏まえ、温泉街を中心とした定山溪温泉の地域にとどまらず、隣接する小金湯温泉や八剣山、豊平峡、札幌国際スキー場までを含んだ広域的な観光エリアを“定山溪”として表現します。



4 構想の位置付け

本構想は、札幌市のまちづくりの基本的な指針である「札幌市まちづくり戦略ビジョン（計画期間：平成 25 年度～平成 34 年度）」で掲げる個別計画「札幌市観光まちづくりプラン（計画期間：平成 25 年度～平成 34 年度）」に基づき、官民一体で目指すべき将来像及び方向性を描いたものです。



【参考】「札幌市まちづくり戦略ビジョン<戦略編>」※抜粋

第 2 章 第 3 節 3 (2) 高次機能交流拠点 定山溪

豊かな自然環境を生かし、自然と共生した様々な体験が可能となる宿泊・滞在型の観光拠点として、その魅力を高めるとともに、更なる活用を図ります。

【参考】「札幌市観光まちづくりプラン」※抜粋

マ ス タ ー プ ラ ン 編	<p>【基本方針 1】札幌らしい都市文化やライフスタイルの魅力を生かした観光の創造</p> <p><u>1-6 札幌の奥座敷「定山溪」の魅力アップ</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 定山溪地区の活性化や総合的な再整備に向けた構想の策定を進めます 支笏洞爺国立公園の豊かな自然環境を生かした体験観光コンテンツやレクリエーション、イベントなど、エリア全体の魅力を生かして、定山溪温泉への誘客と滞在の促進、満足度の向上に取り組みます 国道 230 号や道道小樽定山溪線のつながりを生かした、周辺エリアとの連携による周遊観光を促進し、定山溪温泉への誘客を図ります
ア ク シ ョ ン プ ラ ン 編	<p>【重点施策 2】集客交流拠点の魅力アップ</p> <p><u>2-1 定山溪地区の魅力アップ</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 定山溪地区の観光資源としての魅力を高めるため、付加価値の向上や環境整備に向けた「(仮称) 定山溪魅力アップ構想」の策定 温泉街のライトアップや周遊バスの運行など温泉街の回遊を促進するイベントへの支援 雪を活用したアクティビティなど、ファミリー層・海外客をターゲットとした冬の滞在メニューづくり 食の魅力や自然体験メニューなど周辺の観光資源との連携による周遊の促進 定山溪の知名度向上を目的とした首都圏におけるプロモーション活動の展開

5 取組期間

本構想の取組期間は、平成 27 年度から平成 36 年度までの 10 年間です。

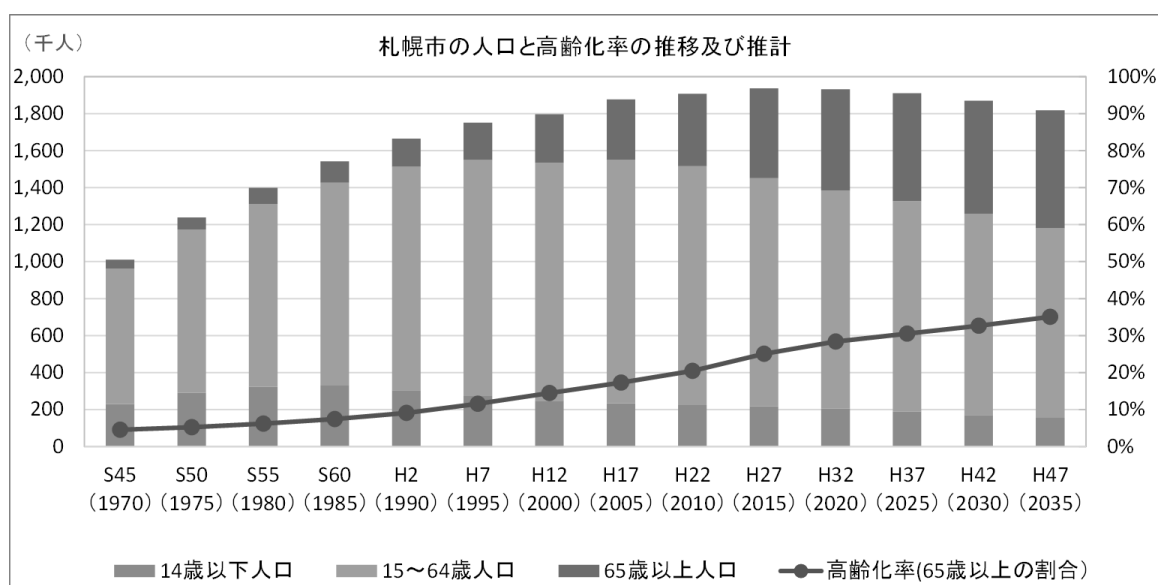
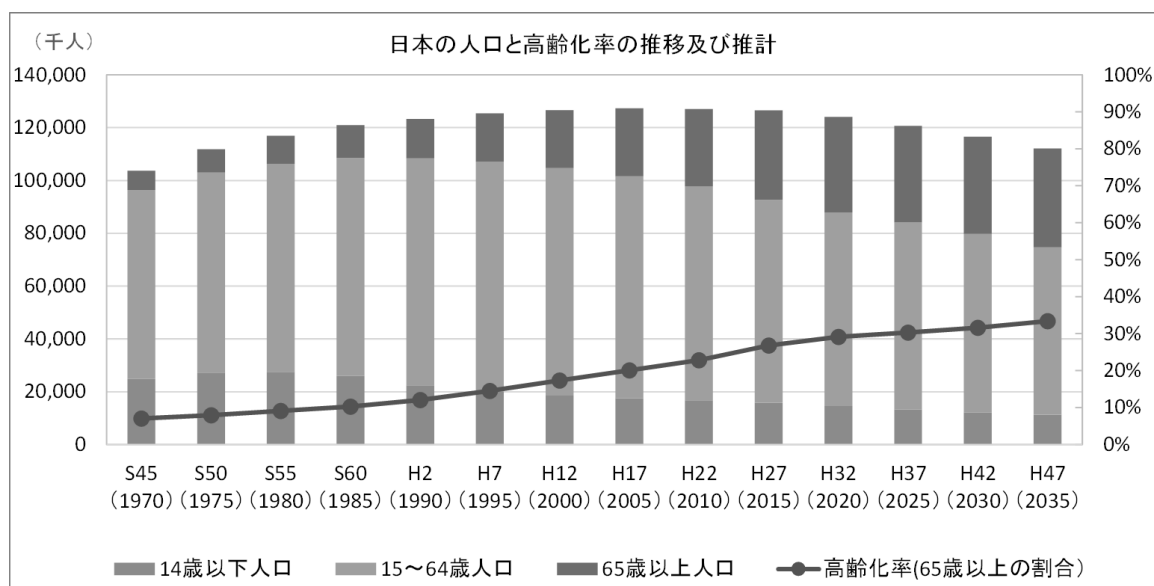
第2章 定山溪観光を取り巻く社会環境

1 人口推移

(1) 札幌市の人口推移・推計

全国的な社会構造の変化と同様に、札幌市においても少子高齢化が進んでいるとともに、平成27年前後をピークに減少傾向に転じることが予測されています。

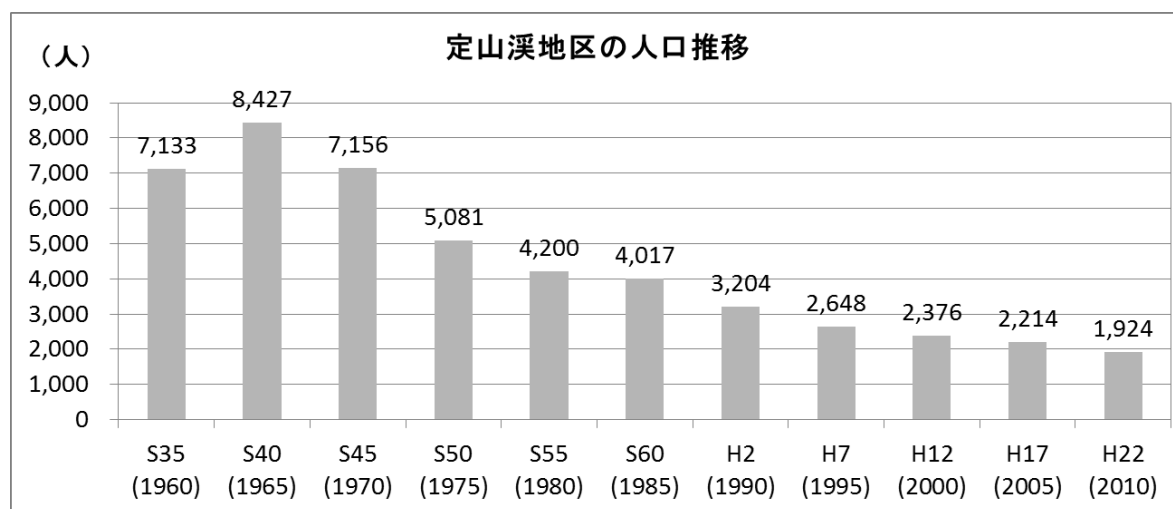
【日本・札幌市の人口と高齢化率の推移及び推計】



出典：国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所、札幌市

(2) 定山溪の人口推移

定山溪出張所管内（定山溪地区及び小金湯地区）の人口は、昭和 40 年頃をピークに減少しており、平成 22 年の国勢調査では 1,924 人となっています。



出典：国勢調査

2 観光に関わる動向

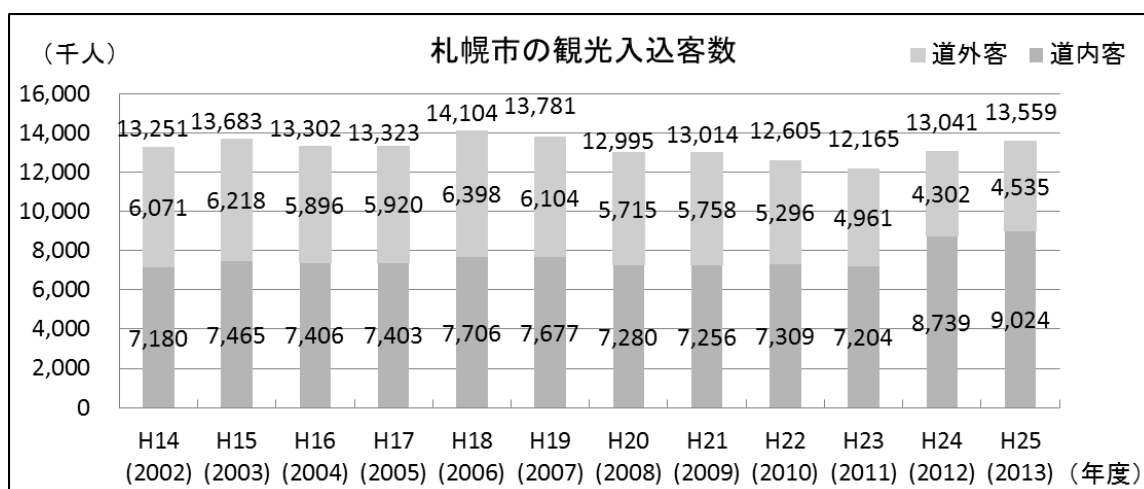
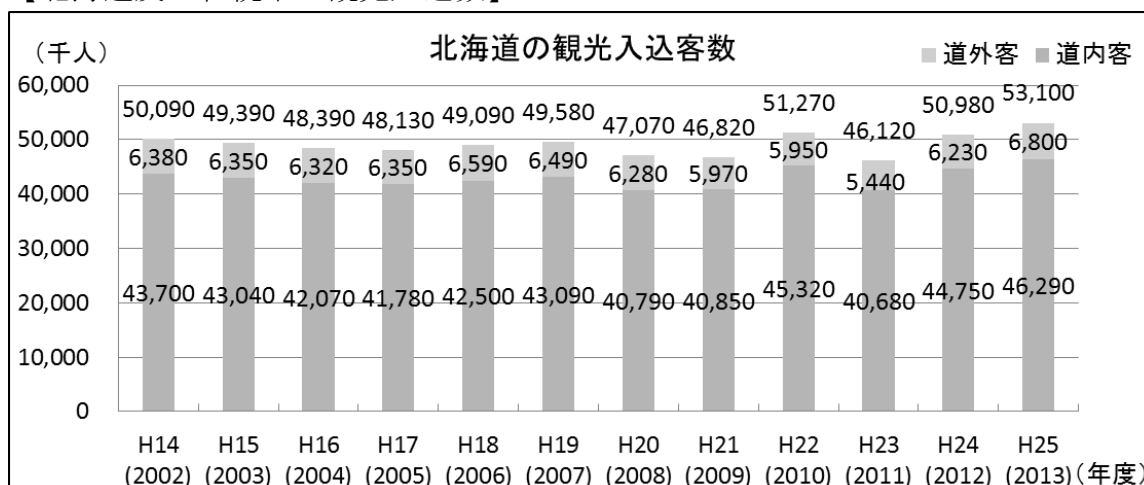
(1) 観光入込客数

観光入込数は、北海道では増減がありつつもほぼ横ばいとなっています。

札幌市は平成 18 年度から減少傾向にありましたが、近年では若干、増加傾向にあります。道外観光客は減少傾向にあり、道内観光客の割合が約 7 割と、その依存度が高い傾向が見られますが、札幌市以外の道内市町村の人口は減少局面に入っており、今後の道内観光客数への影響が懸念されます。

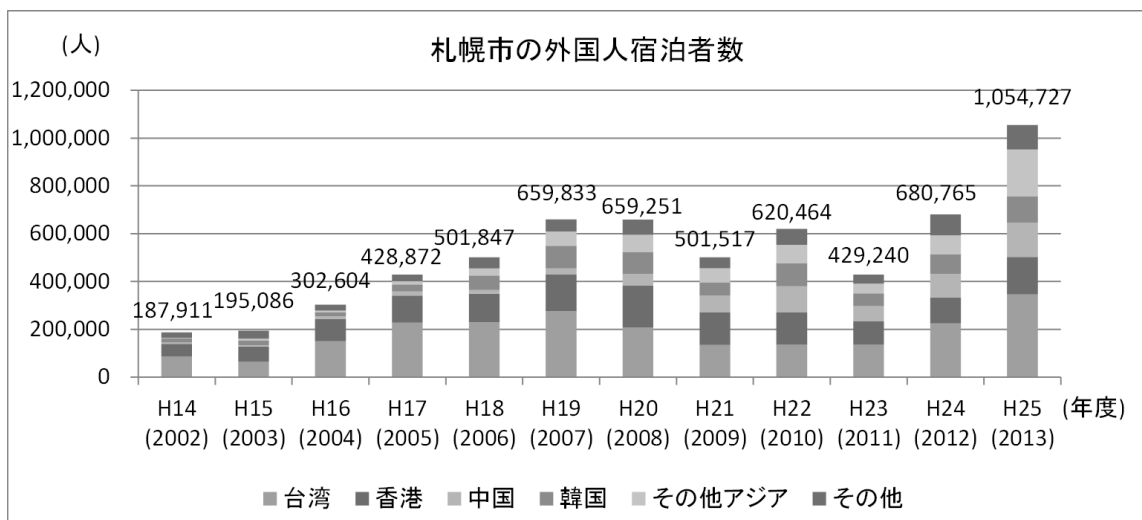
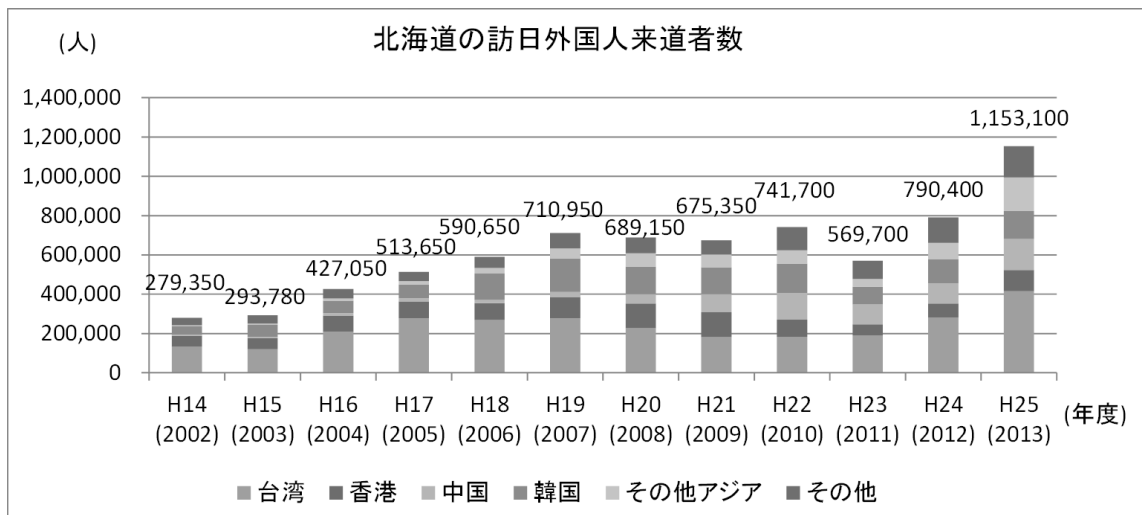
外国人来道者数及び外国人宿泊者数は、北海道と札幌市の増加傾向がほぼ同じ動きとなっています。国別では、最も割合の高い台湾は、平成 17 年度から平成 19 年度頃をピークに低下傾向にありましたが、平成 24 年度から急増し、平成 25 年度は過去 10 年間で最も多くなっています。また、平成 20 年頃から中国の増加が顕著となっており、タイやシンガポールなどの東南アジアや欧米も増加傾向にあります。

【北海道及び札幌市の観光入込数】



出典：北海道観光入込客数調査、札幌市

【北海道の訪日外国人来道者数及び札幌市の外国人宿泊者数】



出典：北海道観光入込客数調査

(2) 旅行形態の変化

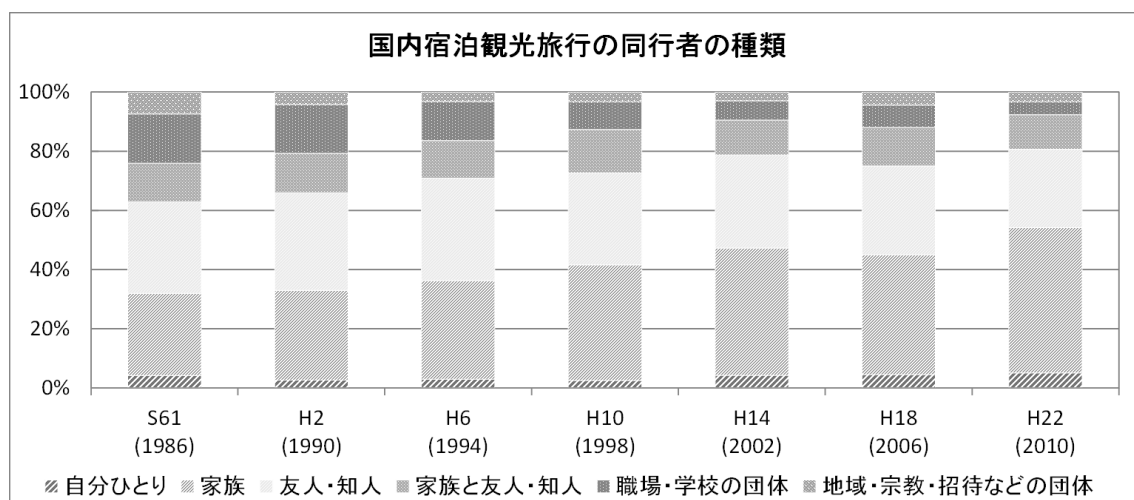
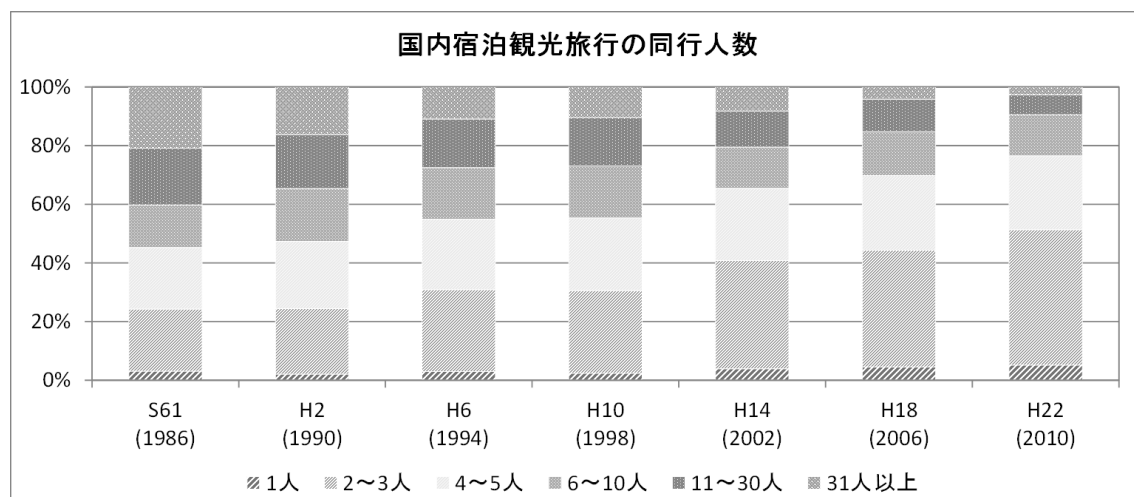
観光客の旅行形態は、団体旅行から個人旅行へ変化しつつあり、物見遊山の一点豪華型から生活感覚の交流・体験型を求める傾向が強くなり、従来のパターン化した旅行スタイルから、より個人の嗜好にあった旅行スタイルへと変化しています。

そのため、観光の目的は多様化されており、訪れた観光地での強いテーマ性が求められているといえます。

また、宿泊先の予約はインターネットでの予約が増加しているとともに、スマートフォンの普及により、発地・着地での情報収集においても、スマートフォンを活用する傾向もみられます。

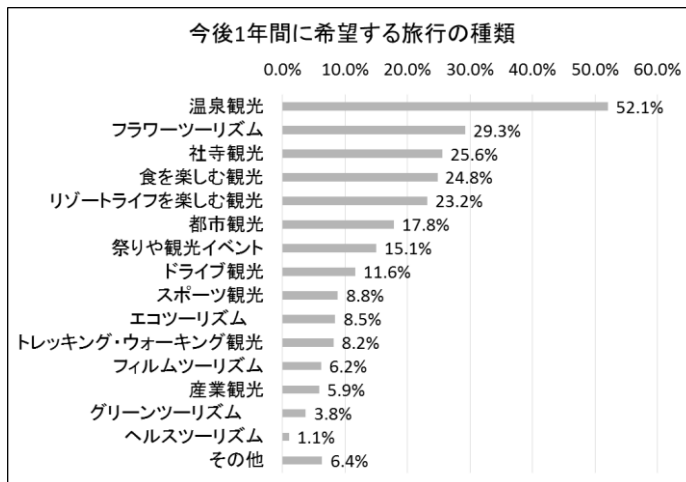
なお、若年層の車離れや他の娯楽の多様化などにより、若年層の旅行ニーズは低迷傾向にある一方、女性グループを中心に共通の目的をもった人達のサークルや、親子3世代、母親と娘の家族旅行などが増えています。こうしたことから、今後は女性やアクティブシニア（活動的な中高年）が需要の担い手となることが考えられます。

【国内宿泊観光旅行の同行人数及び同行者の種類】



出典：社団法人日本観光振興協会「平成24年度版観光の実態と志向」

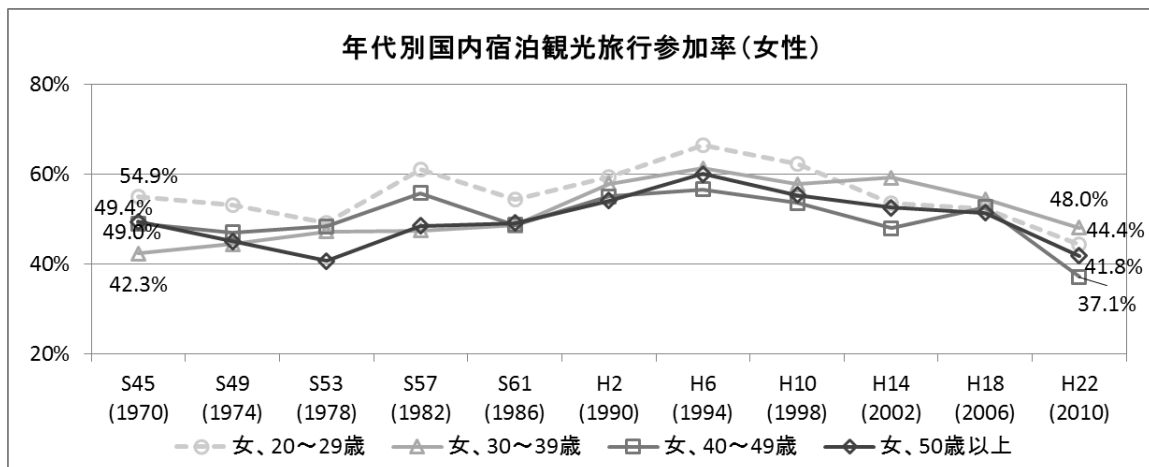
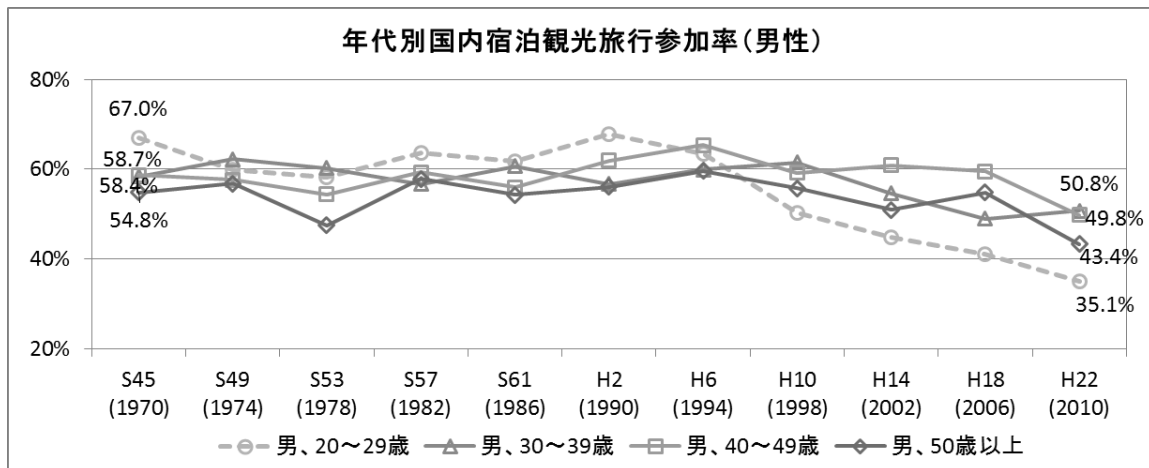
【今後1年間に希望する旅行の種類（国内）】



出典：公益社団法人日本観光振興協会

「平成25年度版観光の実態と志向」

【年代別国内宿泊観光旅行参加率】



出典：社団法人日本観光振興協会「平成24年度版観光の実態と志向」

(3) 観光政策に関する国や地方の取組

平成 14 年に「グローバル観光戦略」が策定され、「ビジット・ジャパン・キャンペーン」として、観光立国の実現のため、官民一体となった訪日外国人旅行者数の拡大を目的としたキャンペーンが進められています。

また、平成 32 年の夏のオリンピック・パラリンピック東京大会の開催を見据え、東京のみならず地方にも訪日外国人旅行者の拡大を波及させるためのさまざまな取組が進められています。

北海道においては、「北海道観光のくにつくり条例」(平成 13 年制定)に基づき、平成 25 年 5 月に「北海道観光のくにつくり行動計画」を、同年 7 月には「北海道外国人観光客来訪促進計画」を策定しているほか、北海道運輸局も、同年 3 月に「北海道観光推進戦略」を公表するなど、さまざまな主体が北海道の観光振興の促進に取り組んでいます。

○ビジット・ジャパン・キャンペーン

訪日外国人旅行者の拡大を目的として、アジアや欧米などの 14 カ国の消費者と旅行会社に向け、官民一体となって進めているキャンペーン。

主な取組として、海外の旅行雑誌や WEB を通じて訪日観光の魅力を発信する「海外広告宣伝」、現地メディアや旅行会社を日本の観光地へ招請する「海外メディア・旅行会社招請」、現地消費者や旅行会社が集まる旅行博での PR を行う「旅行博出展」、観光庁と旅行会社が共同で広告を実施する「ツアー共同広告」などがあります。

○北海道外国人観光客来訪促進計画 (計画期間：平成 25 年度～平成 29 年度)

平成 25 年 5 月に策定された「北海道観光のくにつくり行動計画」などの趣旨に基づき、自然環境や地域の歴史などの観光資源を『四季・感動・北海道』のテーマのもと、国際競争力を有する質の高い観光地づくりや地域独自の魅力を活かした旅行商品開発の促進などを進めていくこととしています。

○北海道観光推進戦略

北海道観光が直面する「遠い、広いから高い、そして日数がかかる」という本質的な問題を踏まえ、「いまあるモノ・コトを掘り起こし磨き上げ、新連携・新結合で観光を通じた高付加価値実現と持続可能なちいきづくりを総がかりで目指す」という計画です。

(4) 交通環境の変化

近年、新千歳空港における航空の動向が大きく変化しています。

平成 24 年から格安航空会社（LCC）各社が新千歳空港と国内各空港を結ぶ航空便の運航を開始したことで、より気軽に北海道に来ることができるようになってきています。加えて、近年では、新千歳空港に海外からの直行便が増加したことで、海外客も増加傾向にあります。

また、北海道新幹線の開業予定があり、札幌圏への新たな観光需要の創出の可能性を秘めていると期待されています。

■新千歳空港—国際線 発着便数

平成 26 年 10 月 26 日現在

路線	航空会社	便数	就航年月
北 京	中国国際航空	週 4 便	平成 19 年 4 月
グ ア ム	ユナイテッド航空	週 2 便	平成 2 年 7 月
香 港	キャセイパシフィック航空	週 4 便	平成 2 年 10 月
釜 山	大韓航空	週 3 便	平成 18 年 6 月
ソウル（仁川）	大韓航空	週 11 便	平成元年 6 月
	ジンエアー	週 5 便	平成 23 年 7 月
	ティーウェイ航空	週 5 便	平成 25 年 12 月
上 海	中国東方航空	週 7 便	平成 13 年 8 月
	春秋航空	週 4 便	平成 26 年 10 月
台 北	エバー航空	週 7 便	平成 15 年 3 月
	チャイナエアライン	週 7 便	平成 18 年 7 月
	トランスアジア航空	週 2 便	平成 24 年 9 月
ホ ノ ル ル	ハワイアン航空	週 3 便	平成 24 年 10 月
バ ン コ ク	タイ国際航空	週 7 便	平成 24 年 10 月
ユジノサハリンスク	オーロラ航空	週 2 便	平成 13 年 7 月

出典：札幌市

3 国内温泉地の状況

観光経済新聞社の2013につぼんの温泉100選ランキングによると、草津、由布院、登別は2年連続でトップ3内に入っています。

温泉らしさを感じることができる特徴的な施設や、そぞろ歩きができる店舗が集積した温泉街が人気となっていると伺えます。

北海道の温泉地では、3位の登別、28位の湯の川に次いで、定山溪が36位にランキングされています。

※2013につぼんの温泉100選は、全国の温泉地（宿泊を伴わない温泉地は除く）から旅行者による投票などで選ばれた上位100の人気温泉地です。

【国内温泉地のランキング（2013年）】

順位	前年	温泉名	所在地
1	1	草津	群馬県
2	3	由布院	大分県
3	2	登別	北海道
4	9	別府八湯	大分県
5	6	下呂	岐阜県
6	5	指宿	鹿児島県
7	4	黒川	熊本県
8	7	道後	愛媛県
9	8	有馬	兵庫県
10	11	箱根湯本	神奈川県
...
28	15	湯の川	北海道
...
36	37	定山溪	北海道
...
43	49	阿寒湖	北海道
...
61	63	知床・ウトロ	北海道
...
65	39	洞爺湖	北海道

出典：2013につぼんの温泉100選（観光経済新聞社）

【参考】上位の温泉地の特徴

草津温泉（群馬県）

- ・温泉街の中心に位置する湯畑の周りは、湯上がりの散策が楽しめる広場となっており、多くの観光客が訪れています。また、湯畑の周辺にある日帰り温泉や足湯、湯もみショーも観光スポットとなっています。



由布院温泉（大分県）

- ・都会にない湯布院らしい街並みの湯の坪街道にはさまざまな土産店などが集積しており、そぞろ歩きを楽しむことができます。また、周辺にも観光資源が点在しています。



登別温泉（北海道）

- ・温泉街から硫黄の香り漂う地獄谷へ続く坂道は、多くの観光客がそぞろ歩きを楽しんでいます。また、地獄谷の周辺には駐車場が完備されており、日帰り客も気軽に立ち寄ることができます。

